

令和元年11月3日(日)、散策には快適な気温の中を参加者16名で実施されました。

祝日（文化の日）に国旗を掲げた都電（荒川線）に初めて乗車し、集合場所である「面影橋」へ。

まずは神田川に架かる「面影橋」の由来とそのもとに、太田道灌の逸話にある、かの有名な「七重八重花は咲けども山吹の（実）みのひとつだに無きぞ悲しき」の和歌に出てくる「山吹の里」の碑があります。



面影橋にて

次に「甘泉園」、徳川御三卿の清水家下屋敷の庭園跡である公園を巡り、「高田馬場」跡へ。

ここはもともと幕臣の弓馬の修練の場であったそうで、地名の由来は家康の側室で高田殿よばれた茶阿の局が、この辺りの風景が好きで遊覧の地としていて高田殿没後、弓馬練習用に馬場を築造したため「高田馬場」となったと言われているそうです。

また、忠臣蔵で有名な後の堀部安兵衛が決闘助太刀を行なった事でも有名となった場所です。

講談などでは、「安兵衛、助太刀のため八丁堀長屋から走るに走り、途中の酒屋に飛び込んで一升酒をあおり、高田の馬場へ、次から次と18人斬りを」とあるが、馬場跡に立つ史跡碑の史実は興味のあるところです。そしてその助太刀の際に気合付けの力酒を飲んだ酒屋（小倉屋）が今もあることに驚きです。



高田馬場跡にて

続いて、徳川家の祈願所「穴八幡宮」に立ち寄る。丁度、七五三の時期で着飾った親子で賑わう八幡宮に参拝して、「夏目漱石生誕の地」へと向かう。「漱石公園」にある記念館で漱石の生い立ちや交友関係についての展示を閲覧。

続いて、徳川三代将軍家光が「祖心尼」の為に建てた「済松寺」へ。「祖心尼」とは俗名「おなあ」、色々と不幸を乗り越え、紆余曲折の後、大奥春日局の補佐役になり、家光にも厚い信頼を得て、その後出家し「祖心尼」となった方だそうです。普段、一般客は入れないとの事ですが、櫻井さんが「済松寺」にお願いしておいてくれたお陰で特別に見学することが出来ました。寺院内には規模は小さくなったそうですが木々が茂る立派な庭園があり、ここが都内である事を忘れさせる様で驚きでした。



漱石公園にて

その後は、杉田玄白生誕地の碑がある「矢来公園」、由比正雪ゆかりの「秋葉神社」、「袖摺坂」、幕府の「新暦調御用所（天文屋敷跡）」、「地藏坂」、牛込城跡にある「光照寺」と巡りました。

「光照寺」ではこの日に、文化財現地特別公開が行なわれていて地蔵坂の由来である快慶作の「木造地蔵菩薩坐像」、他に室町時代の絵画2点の新宿区の指定有形文化財を拝観出来ました。

午前の散策を終え、観光客で賑わう神楽坂通りを経て「鳥茶屋」にて昼食、名物の鳥御膳をつまみに生ビールで喉を潤しました。昼食後は「若宮公園」、「泉鏡花・北原白秋旧居跡」と廻り、江戸城外堀跡の「牛込見附跡」へ、今も一部残る石垣には建設を担当した阿波徳島藩「松平阿波守」と刻まれた石が保存されていました。



名物親子丼



次にこの地が神楽坂の地名の由来である「神楽河岸」からの荷揚げ職人の名に由来する「軽子坂」、そこから風情のある「かくれんぼ横丁」等、石畳と黒塀の横丁を「ピンコロ探し」をしながら散策し、花柳界発祥の地

と言われている「寺内公園」へ、この辺りには有名な

俳優、歌手等が住んでいたそうです。また故田中角栄も神楽坂には並々ならぬ深い縁があったそうです。そして原稿用紙発祥の店「相馬屋」を見つけ、神楽坂周辺が賑やかな町になった元と言われる「毘沙門天善国寺」へ、「善国寺」の阿吽の像は虎の石像で虎のものは初めて見ました。

「毘沙門天」にて本日の「早稲田・神



牛込見付跡にて



善国寺にて

楽坂の歴史探訪」を終えました。

午後には雨との予報が有りましたが雨にも遭わず、江戸の庶民の暮らしや歴史、明治の文豪等広範囲にわたり色々な所を見ながら散策し、楽しい一日となりました。

そして、今回も恒例となったお楽しみ、神楽坂通りにある能登の酒と肴の店で締めのお懇親会を行い、喉の渇きと足の疲れを癒しました。

今回も櫻井さんには資料の作成／配布、又現地では詳しく色々な説明をして頂きました。

本当に有難うございました。

以上

